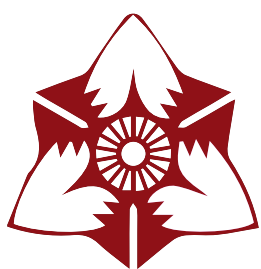


明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会

明鵬吟詠興隆会
会報第1号 2020年2月



全国高等学校総合文化祭（唐津）で高知県の合吟

会報の刊行にあたって

鵬翔流吟友会相談役 大野 正貴（正夫：高知大学名誉教授）



1973年4月、明德中学校が吉田幸雄初代校長先生の教育理念のもと、全寮制として開学した。夕食が終わると生徒達は、講堂に集まり夕礼の時間となった。吉田先生とともに生徒達は、詩吟、勧学（少年老いやすく）を吟じて、吉田先生の講話を聞いた。

この夕礼に幾度が参加した筆者は、鵬翔流吟友会の梶田鵬翔会長が詩吟の普及に熱心であり、2015年10月に明德義塾中高等学校を訪問した。

二代吉田圭一校長先生（現塾長）から、夕礼の時に、今でも勧学を朗読しているが、しっかりと詩吟を稽古してほしいと言われた。それから、月に1度、男子寮、女子寮、竜キャンパスへ、夕礼の時間に詩吟指導が始まった。

2016年年度から、男子寮の寮長から12名の定期的な詩吟の稽古が行われて、鵬翔流吟友会の“集い”にも参加した。2017年度から、留学生の中に日本文化を学ぶ“NIPPONクラブ”が発足して、茶道、華道などを学び、そのなかに“詩吟部”ができた。

詩吟部では、原則、月に2回の詩吟の稽古が行われてきた。今年は明德義塾中高等学校で詩吟の稽古が始まって5年の節目になり、今までの歩みの会報を発行することになった。

明德義塾中高等学校で詩吟の稽古が続き、卒業生との交流を願いつつ会報を刊行する。

ご 挨拶

鵬翔流吟友会 会長 梶田 鵬翔



今から35年ほど前に詩吟に入門して以来、吟詠人口がだんだんと減少し、いつの頃からか、先人の残された素晴らしい日本の伝統文化を消滅させては申し訳ないと思うようになりました。

学校のクラブ活動に詩吟を取り入れて貰えないかと思いつつも数年が経過したある日、高知大学名誉教授の大野先生にご縁が頂けないものかとお願いしますと、大野先生は二つ返事で快諾して下さいました。早速、大野先生とご一緒に吉田圭一校長先生（現塾長）を訪ねてご挨拶を申し上げましたのが、早くも5年前になります。

初代の校長先生の教育理念を今も引き継がれて「勧学」や「桂林荘雑詠諸生に示す」の漢詩を夕礼に吟じて、父母への感謝、周りの人達に感謝し、精神を集中するひと時の時間を大切にされています。それは学校の門を入ると一目瞭然、どの生徒もわざわざ立ち止まり、丁寧にご挨拶をしてくれます。今、疎かになっている礼節を重んじ、人としてのあるべき姿を子供達から、教えられているような気がします。とても美しく微笑ましい光景です。

このような学校への訪問は鵬翔流吟友会の新しい風となって会員を勇気付け、元気に

していただいておりますが、卒業の時はめでたくもあり、また一抹の寂しさを隠せません。黒竹先生は、いつもにこやかに、まるでどの生徒も自分の子供のように慈しみ育み、お世話をされています。毎年 毎年3月の卒業式に巣立つ生徒たちをどのような気持ちで見送っておられるのでしょうか。

さて、この度そのような卒業生たちとの交流を願って、明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会により明鵬吟詠興隆会の会報刊行にご尽力を頂きました大野先生に心から、感謝申し上げます。

明德義塾中高等学校と吟詠

明德義塾中高等学校国際センター長 黒竹 俊介



明德義塾中学が開学した時に、講堂に漢詩“勸学”の額があり、吉田幸雄校長とともに詩吟を吟じてから、夕礼が始まったと聞く。本校食堂には、勸学「少年老いやすく」、竜キャンパス食堂には、桂林荘雑詠諸生に示す「ゆうことをやめよ」の漢詩の額がある。これらの漢詩は、生徒達には、こころの支えになってきた。漢詩吟詠は、夕礼で行っており、明德義塾中高等学校では身近に感じていると思う。

鵬翔流吟友会、梶田鵬翔会長先生のご指導で始まった詩吟稽古も5年の歳月が過ぎた。現在、留学生のサークルとして、Nipponクラブのなかに詩吟部があり、定期的な詩吟の稽古が続いている。詩吟の稽古の世話をしてくれて、毎年感じることは、教室から聞こえる吟詠が、だんだんと大きく聞こえるようになってゆくことであった。

生徒は、自信をもって大きく口を開けている。日本語もはっきりと話すようになり、歩く姿勢、座る姿勢も良くなった。稽古で自然に身に付いたのだろう。挨拶の姿もすばらしい。稽古の時間に、歩き方、座り方、礼の姿勢の練習が繰り返される。大学進学の際に、面接室に入る時の歩き方、座る姿勢が、詩吟を稽古した生徒は、よいと大学側の先生に言われる。好感を与えているようである。

今年の7月には、唐津で全国高等学校総合文化祭に7名の生徒が参加した。「桂林荘雑詠諸生に示す」を吟詠したが、最初に中国語で漢詩を朗読した。この事柄が、詩吟の雑誌に掲載されると、その雑誌が送られてきた。世話をしてくれた者をして、うれしく思っている。

詩吟部の生徒達には、詩吟という日本文化を会得したことの思い出が、生涯、こころに残るであろう。今後とも吟詠する生徒達も見守ってゆきたい。

会報作成にあたり、梶田鵬翔会長の提案で「明鵬吟詠興隆会」を組織することになりました。興隆（こうりゅう）は文化活動などの行動が盛んになり、その勢いが増すという意味です。この会が、鵬翔流吟友会と明德義塾中高等学校で詩吟を学んだ生徒、また先生方との絆を結ぶことを期待します。

平成27年（2015）10月より夕礼の時に詩吟の指導



▲女子寮の夕礼で、勧学の吟の指導をする黒竹俊介先生、中西鵬鶯先生、梶田鵬翔先生

明德義塾中高等学校では、夕食が終わると、男子寮と女子寮、運動部寮で夕礼が始まる。

各寮の寮長が、今日一日の寮生の体調を報告する。壁に漢詩・勧学が張られている。ついで漢詩の勧学が朗読されていた。当時はテープの調子が悪くて吟詠は行われていなかった。

最初の詩吟の稽古は、女子寮の近くにある体育館で、午後7時30分より稽古が開始した。



▲女子寮の教室で、座布団に座って詩吟の稽古をした。

女子寮の稽古は、生徒達はハッピーを着て、座布団を持参して集まってきた。10月の半ばになると寒い。最初は詩吟の基本知識、漢詩の説明から始まった。

2回目は全員で唱和し、3回目は小グループに分けて、詩文は暗誦して吟詠稽古をした。まだ声を充分に出ていなかったが、3回目の吟詠指導で、音程も揃い、きれい音色も揃い素晴らしい合吟となって稽古は終わった。



▲右より、山中清翔（清一）氏、梶田鵬翔会長と三人の先生方を前に、生徒達は詩吟稽古。

竜キャンパの詩吟稽古は1月に入った。食堂は暖かく暖房されていた。

生徒の世話に参加された3人の先生方は詩吟の心得があり、男性音声で指導をした鵬翔流吟詠会の山中清翔氏とともに、夕礼で吟じられる広瀬淡窓の「桂林荘雑詠諸生に示す その一」の練習を、1回に1時間行った。

食堂に大きな上記の漢詩が額で掲げてあり、日頃から、先生方と一緒に夕礼、合吟をされていたので、3回で稽古は終わった。

明德義塾中高等学校の生徒の詩吟指導の思い出

鵬翔流吟友会講師 中西 鵬鶯（淑子）



横浪スカイライン宇佐大橋を渡ると、すぐに高知大学海洋センターの駐車場ある。そこで待ち合わせて、梶田鵬翔先生、大野正貴さんと私は、1台の車で出発しました。15分くらい横浪スカイラインを走ると明德中高等学校のキャンパスに着きました。距離は短いけれど曲がりくねっているので、私は時々酔うことができました。夜、山道でイノシシの親子に出会うことも。そんな山のなかに明德義塾は、一つの大きな町のように、上から下へと広がっています。

校内に入り、生徒さん達に出会うと、車に乗っていても、丁寧に挨拶をさせていただきます。校長室には、有名になった卒業生の額がたくさん掛けられていて壮観です。初めて稽古に伺ったのは、平成25年10月でした。メンバーは生徒会長、運動部部长、寮長などリーダー格が選抜され、しっかり者、つわもの達の男子生徒ばかり12名でした。この年は、秋の集い、五周年記念大会で、彼らは「勸学」・「絵の島」・「富士山」を吟じました。運動や統率に長ける彼らも、場違い舞台裏では、いつもと変わった不安そうな緊張感がみられ、出番を終えた時の安堵した笑顔をみて、“やっぱり普通の男子だった”と可愛く思えたり、安心したことが思い出されます。

29年度は、5月から中国の留学生男子華凡欽（カボンキン）君他4名、女子2名（李好さん、徐悦さん）の生徒さんでした。彼らはNIPPONクラブ員で、生け花や茶道も学んでいるようです。秋の集いにあでやかな振袖姿に、ハッとして感動。本人たちが一番びっくりでしょうが。二人の付き添いの女性教師（澤田美木先生、寄本光希先生）は、彼女ら晴れ姿と吟詠に感激の涙を浮かべている姿をみて、わたくしの方まで、もらい泣き。

滅多に感動しない私なのに。詩吟にはこのような力もあるんだ〜と。かねてより梶田先生の念願は「高校生に詩吟を」であった。このように素晴らしいことだと、改めて若さのチカラに驚かされた事でした。

数日後に、明德のお二人の先生方にお会いした時に、「詩吟の稽古と後では、顔が違います。生き生きと自信ある明るい笑顔に。声を出すのは、本当によいことなんです」と言われました。大会後に、全員の皆様から上手な文字で丁寧な日本語の礼状をいただき、出会ってよかったと喜びをかみしめたことでした。今年度は、4月よりNipponクラブ員が増えて、月2回の稽古が始まりました。11月の“鵬翔流吟友会秋の集い”を目指して稽古の熱も高まってゆきます。期待と不安が交差しますが、若さをもらいます。

鵬翔流吟友会創立五周年記念大会に参加

平成28年（2016）11月6日 高知商工会館

運動部の生徒は、それぞれの寮で寝食を共にしているので、28年度の詩吟の稽古は、各運動部と生徒会などの寮長をしている生徒、12名が9月より稽古をすることになった。部活動時間が終わり食後の稽古であった。キツイ練習の後の詩吟稽古であったので、皆、リラックスしていた。石崎拓馬君は、相撲部の部長であったが、体形はあまり大きくなく、グループのムードを盛り上げていた。山口海斗君は、いつもバットの入ったカバンをもって、教室に現れた。少々詩吟の上達は遅かったが、大会では実力以上の素晴らしい吟詠を披露した。



▲男子生徒全員による合吟「勸学」を合吟の後に、梶田先生へ花束贈呈

詩吟稽古の参加者

平田 仁之助（6年生徒代表、剣道部） 石崎 拓馬（6年相撲部） 仲村 元暉（6年ゴルフ部）
池内 柊登（5年サッカー） 稲葉 大仁（5年サッカー部） 山口 海斗（5年高校野球部）
寺井 景佑（5年高校野球部） 毛利 志龍（5年高校野球部） 小泉 航大（3年中学野球部）
太佐 凜太郎（3年中学野球部） 安田 陸（3年中学野球部） 西田 龍生（3年中学野球部）

詩吟大会に明德生が参加報告

明德ニューズレター（たんぽぽ、2017. 1）

鵬翔流吟友会創立5周年記念の吟詠会「風雅を楽しむ秋お集い」が11月5日、高知商工会館を会場に明德の中高生12名が参加して開催され、全員で大合吟「勸学」を披露。

さらに平田 仁之助君（6年B）石崎 拓馬君（同）稲葉 大仁（5年B）寺井 景佑（5年A）の4人が「絵の島」を吟じ、熱演ぶりに参加者から盛んな拍手が送られた。

名詩・和歌・短歌・俳句を題材の詩吟は、吟じることで礼節を知り、自然の美しさを再認識できる伝統文化として希望者を募って参加者を決定。9月より夜間や休日に猛練習を続けてきました。平田君は「腹の底から吟じることで、この上ない清々しさが体験できる」と、詩吟の魅力を話していました。

平成29年度（2017）年秋の集いに参加

平成29年10月29日に高知商工会館に於いて、鵬翔流吟友会の秋の集いが開催された。この“集い”に明德義塾中高等学校の中国留学生が参加した。今年度から、NIPPONクラブが発足し、その中に詩吟部ができて、7名の生徒が参加した。

汪倫に贈る 作者 李白（男子生徒）

華凡欽（4年海南省）、曹洪翎（4年四川省）

張恵武（5年陝西省）、任禹丞（5年黒竜江）、張晃然（5年北京市）

江南の春 作者 杜牧（女子生徒）

季好（5年広東省）、徐悦（5年上海市）

勧学（偶成）

男女生徒全員



明德義塾高校生徒と鵬翔流吟友会員とともに

前列：中西鵬鶯、梶田鵬翔、徐悦、季好、杉本美翔

後列：張恵武、任禹丞、張晃然、曹洪翎、華凡欽

秋の集いに参加した生徒の紹介と先生へお礼の手紙

明德義塾中学高等学校 中国留学生（高校生）NIPPONクラブを代表して

高知の詩吟の大会（鵬翔流吟友会）に、中国留学生7人で参加しました。

学内にニッポン・クラブをつくり、日本文化を知るサークルです。最初に詩吟を習いました。2か月という短い特訓でしたが、舞台上に立っても、少しも緊張しませんでした。

中国の詩が、このように、きれいな音色で表現できるのは、素晴らしいと思いました。これが国際交流ですね。詩吟は中国と日本の文化が同じことの表現法の一つだと思いました。これからも、詩吟と日本語を勉強したいと思います。明德へどうぞ。

大会が終わって先生方への手紙

徐悦（女子5年）

こんにちは、私は徐悦です。この2か月間の特訓、お世話になりました。どうも、ありがとうございました！詩吟を初めて習って、今まで、毎週火曜日、水曜日にこの日本の伝統文化を学ぶ習慣になれました。私も初めてから恥ずかしがり屋ですが、どんどん声が出るようになってきて、本当に感謝しております。

ステージの上に立っていて発表した時、ぜんぜん緊張していませんでした。逆に「皆さんの前で、この2か月間以来の全部の実力を表そうと思いました。先生方の教え訓じたことに、背いてはいけないうようにしました。最後に、次に会えることを期待しています。

徐悦の顔を覚えていてください。

張恵武（男子5年）

先生方、お元気ですか。詩吟の日が終わって多くの時間が経ちましたが、でも、あの時のことは、1日前のこのように全部覚えています。本当に楽しい時間でした。日本の詩もいいし、中国の詩もいい。

訓練の時は時々恥ずかしいと感じたこともありました。でも続けていくと、また面白いと奇妙な感じもありました。最後まで表現しました。後悔もないし一生懸命頑張りました。これは国際文化交流の種ですね。詩吟は表現方法の一つ、中国文化と日本文化と同じ。でも読みが違いことが知りました。

授業ありがとうございました。詩吟も歌も日本語も全部、続けて勉強します。また明德へようこそ。

華凡欽（男子5年）

こんにちは、詩吟の練習は先生、本当にありがとうございました。詩吟といえば、はじめて知ったには、夕礼の変な歌でした。私は詩吟をやるとは、一回も思っていませんでした。

始めの時は、超はづかしかったです。その原因は、発音とか声の大きさとか、私にとっては難しいことでした。でも先生は私達よく手伝ってくれました。この詩吟の経験は珍しい記憶となって私はずっと覚えています。ありがとうございました。

季好（女子5年）

先生 いつもありがとうございます、Nipponクラブの私たちは、今回の詩吟の発表は大成功でした。2か月前から詩吟の連中を、初めて勉強しました。最初はあまり気にいっていなかったけれど、だんだんと魅せられてきました。自分でもびっくするほど。

先生の2か月の教えを経て、私達はすべてに順応しました。今は、皆も詩吟に興味をもっています。短い2か月にいろいろな楽しみがありました。詩吟のことをたくさん理解しました。今回の発表会。こんな大きなチャンスを与えて、とてもうれしかったです。

先生にここから謝意を表したく思います。

平成30年（2018）年度 秋の集いに参加

平成30年度秋に秋に集いは、11月3日南国市赤岡町の升席もある歌舞伎公演ができる弁天座で開催された。明德義塾中高等学校から、和太鼓クラブの生徒達が幕開けに勇壮な響きを披露して吟詠会が始まった。

今年度は初めて、構成吟詠「淡窓塾生に贈る」に挑戦した。江戸時代末期の学者広瀬淡窓は、10歳で久留米の松下築陰に学び、18歳の時、病にかかり帰郷、以後26歳で大分県日田裏町に塾を開いた。これが桂林荘である。入門する者が増えて10年後に堀田村に新築して咸宣園と称した。門下生から高野長英、大村益次郎、谷口藍田などの多くの逸材を輩出した。淡窓は詩経の「溫柔敦厚」の教えを重んじ、教育の中心に「詩」をおいた。淡窓が塾生たちに示した四首連作の中に2首を吟じた。

桂林荘雑詠諸生に示す その一

遠く親元を離れて他郷での塾生たちの様子「君は川の水を汲みたまえ、僕は薪を取りに行こう」霜が真っ白に降りた寒い朝の、朝食の情景は大変でしょう。



「桂林荘雑詠諸生に示す」を吟詠する生徒達

左より 陳嘉儀、用貝美季、李双、華凡欽、王茂淇

桂林荘雑詠諸生に示す その二

遠い故郷で、自分の帰りを待ちわびておられる白髪となった両親の事を思いと、早く学業を終えて帰り、孝養をつくしたいという気持ちがかきりにおこる。夜半、古い樹が風にゆれ、蠟燭の炎がゆれと、故郷を思う念が強くなる。

吟詠：李遠清 曹洪翔 黄金 劉天宇 崔湛杭



明德義塾中等学校 Nipponクラブ詩吟部の吟詠参加者

前列：李遠清、用貝美季、王茂淇、華凡欽

後列：李双、劉欣雨、陳嘉儀、曹洪翔、劉天宇、黄金

弁天座大会に参加して、先生へお礼の手紙

李遠清（女子5年）

私は女子なので、一緒に歌う機会がすくなかったのですが、優しく私達に接しくて教えてくれたことに感謝しております。演出が成功に行われて、私達も和服をきて詩吟をやるというすばらしい思い出ができて、すごく楽しかったです。

また 機会があったら、お目にかかりたいです。これから冬になり寒くなってくるので、先生たちもお身体に気を付けて安らかい過ごすよう願います。

陳嘉儀（女子5年）

先生たちは、毎週木曜日に私たちの練習に来ました。距離が遠く大変だと思います。本当にお疲れさまでした。先生たちのおかげで、発表会の時は、よくできました。

いろいろすごくうまいひとをみました。中国ではこんな交流会はありません。生活が忙しくて自分の好みがなくなっています。

中国に帰って日本の文化を中国人に教えて、中国の文化も理解したく思います。

本当に感謝しております。来年もお願いします。

用貝 美季（女子5年）

この前の大会はよくできたと思います。実はといえば、舞台にあがるのが恐ろしかったです。先生の励ましの言葉をもらって、少しだけ自信ができました。しかし、友達も一緒に発表するので、緊張感が薄くなるのを感じました。

終わってから、自分が成長したと感じました。先生にいろいろ教えてくれて、大変感謝しております。もうすぐ寒い季節になるので、お体に気をつけてお過ごしください。

劉天宇（男子5年）

こんにちは、おげんきですか。先日の土曜日の詩吟の大会の際は、とてもお世話になりました。詩吟の稽古を下さり大会に出るために、和服と袴まで準備して感謝しております。私は、少し疲れましたが、とてもうれしかった。

最後に、これから寒くなってみます。どうぞご自愛ください。

明德義塾中・高等学校文化祭でNipponクラブが詩吟を吟じる



中国留学生で明德義塾高等学校に在学している生徒は、Nipponクラブというサークルを作っており詩吟の稽古をしている。

2月22日に開催された生徒達が運営する文化祭に参加したいという彼らの希望で、特訓をして、桂林荘雑詠諸生に示す（その一）、（その二）を吟じた。竜キャンパスの中庭に学生たちが特設した舞台上、ナレーションも上手な日本語で行い、吟も上達して、観客生徒から大きな拍手をもらい、皆満足な笑顔を浮かべていた。今後の上達を期待したい。

2019年度 Nippon クラブ 詩吟部の活動



◀ 稽古も最終となり出発前の記念撮影

前列:左より、

大野正貴、梶田鵬翔、中西鵬鷺、
陳嘉儀、用貝美季

後列:黄金、華凡欽、劉天宇、崔湛杭、
王茂淇

2019度の詩吟の稽古は、7月に全国高等学校総合文化祭があり、参加がきまっているので、4月から、毎月木曜日に2回の定期的な稽古がはじまった。

7人の生徒は、2年生3年生で、昨年の秋に、弁天座の秋の集いで舞台に立って、立派吟詠をした生徒達であり、7月唐津へ一歩高い目標があったので、稽古への熱もあがった。

■ 全国高等学校総合文化祭に参加

令和元年（2019）7月28日 佐賀県唐津市市民会館で開催されて、詩吟・剣舞の部に、県立岡豊高等学校、県立西高等学校、県立中村高等学校、明德義塾高等学校が参加した。

総括の田中泉韶先生、生活・行動指導は中村高校林優先生。生徒達はすぐに仲良くなり、夕食後に生徒達は10時門限まで祭りの夜店を歩き楽しんでた。27日、リハーサルは、本番の立ち位置からマイクの場所までの歩き方まで、田中先生の厳しい声が飛んだ。本番が終わった夕食で田中先生は、目をうるませて、「本当の吟詠ができた。吟詠は、もちろん、舞台での歩き方、礼の姿勢など、すべてが出演者のなかで最高点であった」と講評された。各々の生徒が感想を語ったが、明德義塾の生徒は、他校に臆することなく報告した。

明德義塾中高等学校吟詠

桂林荘雑詠諸生に示す その二 崔湛杭、華凡欽、劉天宇、黄金、王茂淇、陳嘉儀、用貝美季
坂本龍馬を思う 四高等学校 合同吟詠



明德義塾の生徒達、左より 陳嘉儀、用貝美季、王茂淇、崔湛杭、黄金、劉天宇、華凡欽

■ 卒業生を思う

大野正貴（正夫）

華凡欽君、劉天宇君、黄金君の6年生は、一時帰国しコロナウイルスの処置で、卒業式に参加できず無念だろう。私達は卒業式に「明德義塾卒業生に贈る」を、校歌斉唱の後に吟じて貴君らに聴いてもらいたかった。無念である。華凡欽君は4年生から詩吟の稽古をし、まとめ役であった。劉天宇君は、大学の面接で詩吟を披露した度量がある。

黄金君は、6年になると急に吟がうまくなった。唐津の全国大会では、3人は大舞台上で堂々と吟詠を披露して感動した。大学生活でたくましく成長し、資質を高めることを期待したい。

明鵬吟詠興隆会・会報 第1号発行 2020年2月

明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会 明鵬吟詠興隆会

事務局：大野正夫 〒781-1164 土佐市宇佐町井尻226-2

Tel 090-7145-2456 Email: moseaweed@yahoo.co.jp